

第163回特別国会召集

論戦始まる！

相変わらず改革は「郵政改革」のみ 方向性の見えない小泉内閣

国会の冒頭行われる小泉首相の所信表明演説は、郵政民営化問題以外まったく具体性のないものであり、相変わらず改革は「郵政改革」のみだと言い続けてきたこの4年5ヶ月の小泉内閣の実績を象徴しているような演説でありました。演説の半分近くを改革の本丸と位置づけた郵政民営化法案の早期成立に向けた決意表明にあて、この法律が成立したら次の課題である、政府系金融機関の統廃合については、「改革に取り組んでいく」と述べるにとどまったのです。国と地方との税財政改革（三位一体改革）や国家公務員の総人件費の削減なども、見事にあっさり触れただけで終わってしまいました。

朝日新聞の社説には、「まるで選挙演説そのままだった。」と書かれ、「受検勉強に没頭したあまり、念願の大学に入ったあと虚脱状態に陥ってしまう五月病。三十年来の念願だった郵政民営化の実現についに手をかけた首相も、似た状態にあるのではないだろうか。」と五月病説を説く評価になってしまったのは、総選挙での3分の2を超える与党勢力を確保したおごりではないでしょうか。

「内山あきら」 衆議院厚生労働委員会委員 衆議院安全保障委員会委員に就任

二期目の「内山あきら」は、今回も厚生労働委員会を第一希望として、社会保障制度全般にわたって委員会における活動の場を確保しました。

厚生労働委員会において、重要な法案となりますのが、「障害者の自立の支援及び社会参加の促進に関する法律案」（障害者自立支援法案）であり、「アスベストの対策推進法（民主党提出）」や、「被爆者援護法の改正案」であります。特に、障害者自立支援法案は、先の国会において解散における廃案になっています。今回は、政府側は、早期の成立をもくろみ、参議院先議の法律案になっています。しかし、この政府案では、障害者の自立に向けた所得保障や社会参加など十分な社会参加促進法になっていません。民主党は、現在、対案づくりに向け作業を進めています。何よりも、現状のサービス水準を維持して、所得保障をした上で、障害者の自立を支援する方向こそが国の責任だと考えるからです。民主党が提出する「アスベスト対策推進法」については、「内山あきら」も作業チームの一員として、民主党の法案作りに参加をしています。今後20年に及ぶ被害の拡大が懸念される重要な問題でありますので、しっかりと取り組んでまいります。